石灰、セメント
煉瓦、角又
布のり、苧すさ
上塗用色土、砂
其ノ他壁用諸品

小野田セメント
愛知セメント
三井物産株式會社特約店

豊橋市西八町（關屋通リ）
金子商店 鈴木森平
電話九〇六番

金物
銅鐵
卸商
神戸小三郎商店

豊橋市鍛冶町貳拾七番戸
井桁屋

電話 三二八番
電略（カンヘ）
振替東京一二四八七番

露光量違いの為重複撮影

西郷の傘と旗

裝飾品一式

團体徽章各種出來合品豐富

豐橋市曲尺手町

西郷善吉商店

電話一〇二四番

三河セメント

株式會社

露光量違いの為重複撮影

西郷の傘と旗

裝飾品一式

團体徽章各種出來合品豊富

豊橋市曲尺手町

西郷善吉商店

電話一〇二四番

三河セメント

株式會社

井ヘイ醤油
豊橋市瓜町
服部平之助吟造
電話三一一番

社會事業

社會係…研究調査項目…社會的疾患
都市改良の根本義…共同責任の觀念…

市當局は時勢の進運に察する處あり、曩に社會係を設け之に關する行政事務を取扱ひ來つたのであるけれども其行政方針は極めて消極的で法令に依り當然實施すべきもの丶外一般に亘る調査並に之れが事業の助長改善の方法に就ては餘り積極的施設に出でなかつたのであるが最近大に此の方面に着目する樣になつて來た……と云ふのは、歐州戰亂以來世界思潮は急激なる變化を來たし社會政策の氣運頓に勃興し諸般の行政一つとして此問題を度外に置く事が出來なくなり新たに社會事業調査員會も組織され各種の社會施設に關し其の研究實行に着手したのである、されど所謂其社會事業なるものの範圍は、實に廣範多岐であつて今俄かに凡ゆる方面に亘り之が研究施設を爲すを得ないから逐次其の充實を期せんとする摸樣である。市は行旅病者、仆死亡者、窮民及軍事の救護や罹災救助は之迄よりも一層完全にすると共に人事相談失業者の救濟及細民調査と隣保同化事業尙ほ進んでは無料

診療所なども追々實施する方針を採り、目下着々調査の歩を進めて居ると云ふ事である今後の社會事業は總て事實に立脚しなければならない、現狀を曝露して識者の考慮を促すのは今日の最も急務とする處である社會狀態の調査研究は從來本市として餘り重きを置かなかつたのであるから將來大に此の方面に努力を拂つて貰はなければならない社會組織の缺陷から來る落伍者の數が物質文明の進展に伴ひ年と共に激增の勢を示し、且つ其の多くは集團を成して所謂細民地區なるものさへ形成するに至るのである。社會的疾患は之から生するので之を治療する事は一面には各個人存在權の人道上の要求に合致し他面には社會自衛又は社會向上に缺くべからざる處で又都市改良の根本義であらねばならぬ。此の意味からして以上各種事業の施設計畫中失業者救濟に關する職業紹介所は豊橋市役所内に開設し其成績大に見るべきものがある。本年五月市役所内に方面委員豊橋方面事務所を設け顧問は豊橋市長で十二名の方面委員は關係官公吏と提携して一般的生活狀態要救護者の狀況調査と既存社會的施設の活動を即成し新に施設を要する事業等を研究して居る。併し此外小住宅の建設、保育所、簡易食堂、公設市場等の社會的施設に着手せられん事を望まゝ欲しく思ふ殊に最も注意すべきは市内に於ける救濟施設の助成監督であつて今其の既設事業を分類すれば育兒感化及托兒人事相談等を兼ねて居る東田の有鄰財團と豊橋盲啞學校など其の主なるものであるが、尙豊橋佛教會施設の無料宿泊所も好成績を擧て居る。之等は周到なる社會現象並に其の原因の調査に基き統制的有機組織に依つて一齋に其の歩を進め共同責任の觀念に依つて根本的に之が改善向上を企圖しなければならぬと思ふ。

土木衞生

地方開發…都市計畫……

輓近豊橋市及接續町村の急激なる人口增加の趨勢並に商業の般賑工業の隆昌其他市及町村部落を通し蔚然勃興の機運を釀成せる產業の發展に伴ひ、人車の交通、貨物の集散愈々繁劇の度を加へ隨つて交通機關の整備改善は蓋し急務中の急務に屬するのである。市當局は之等交通の狀態に鑑み、豊橋市を中心として各通路の改善其幹線の連絡並に主要鐵道停車場を連絡する主要道路の改善に關しては鋭意之を企圖すると共に地方開發に必要なる道路の改修を計畫し以て時運に伴ふ施設を完ふせん事を頻りに研究調査を重ねつゝあつたが大正十二年都市計畫法に依る市として指定發表せられ仝年七月一日から實施せらるゝ事と

なつたから道路の改修上下水道の敷設等は明年度より實現するであらうと思ふ。

名勝舊蹟

今橋城…戸田今川の爭鬪…家康と織田氏…
城主の交代…最後の藩主…舊城址……

今の豐橋を吉田と稱へたのは天文年間から明治二年迄で、其以前は今橋と謂つた。當時三河の國の守護は吉良氏であつたが、文明の頃に至つて牧野古白が此の今橋に築城したのである然るに永正三年八月駿河の今川氏自ら軍を率ゐて今橋城を攻めたのであつた。古白は城に據つて固守する事六十餘日、惡戰苦鬪を續けたけれど力遂ひに及ばずして自殺するに至つた。此に於て城は一時田原の城主戸田彈正憲光の一族戸田金七郎の有となつたのであつたが其後大永の始め頃に至つて、古白の遺子傳左衛門成之と傳藏信成の爲めに再び取り返されたのである。程なく成之は隱居して信成其後を襲いだが享保二年岡崎の松平清康大擧して此城を襲來し、信成は一族郎黨と共に下地に於て戰つたが運拙くして遂ひに戰死し、城は一時松平氏の有に歸した。然るに天文四年吉田時代に入り清康の守山崩れ以後は復び戸田金七郎の有となり爾來十有餘年間舟形山一帶の山脈を境界として、戸田今川兩氏の爭鬪が絶えなかつたのでああが、天文十五年遂ひに今川義元の範圍に入つたのである…處が永祿三年五月桶狹間の戰ひに於て義元戰死した、其時德川家康はまだ松平元康と云つて今川氏の味方であつたが、其翌四年に至つて義元の子氏眞との間に不和を生じ隣交は斷絶となつたのである。

其頃吉田城には今川氏の將小原肥前守鎭實が居つて、東三河に於ける諸將の人質を此城に預つて居たが、家康に屬したものは悉く龍拈寺口と云ふ處で殺して仕舞つた。家康が岡崎から大擧して此の城を攻めたのは永祿七年の初めであつたが其頃今の豐橋市の東郊に當る仁連木にも城があつて戸田主殿介重貞が居つた、此重貞も早くから家康に心を寄せて居たのであつたけれど何分にも其母が人質として此城に容れてあつた爲め反旗を飜す前に先づ母を奪ひ戻さなければならぬと考へ種々工夫した末に首尾よく目的を達したのである、家康は翌八年鎭實を亡ぼし此城を酒井左衛門尉忠次に與へたのであつた、斯くて程なく今川氏は衰へ三河は勿論遠江全國までも德川氏の有に歸するに至つたが、其代り今度は追々甲州から武田氏の侵入が始まつたのである。即ち元亀三年十二月信玄軍を率ゐて遠江と三方

ケ原に於て戰つたのであつたが、此合戰は德川氏の大敗となつた、信玄は勢に乘じ更らに三河に進入し、天正元年正月南設樂郡の野田城を陷れたけれど、此の戰の爲めに逝去するに至つたのである。然るに天正三年四月其子勝頼大兵を擧げて二連木城を襲ひ續ひて吉田城に迫つた、夫れから長篠の合戰となつたのであるが、今度は武田方の大敗となり、之れが原因で天正十年三月織田信長と家康との爲めに其根據を侵略されて、武田氏全く滅亡するに至つたのである。其年六月信長は本能寺に於て明智光秀に殺され、之れより秀吉の舞臺となつた、秀吉と家康は小牧山で一度戰を交へたけれど程なく相和し、天正十八年秀吉が小田原に北條氏を征伐した時には家康も國を明けて秀吉に捧げ自分も之に從軍した、其役の終つた處で家康は秀吉の爲めに關東八州へ移封せられたのである。此時忠次は既に隱居し其子家次が相續して居たが之れも家康に從つて上州碓井の城へ移つた。家次の後へ來たのは池田三左衞門輝政で牛久保、新城、田原の三城も其配下に屬し知行十五萬二千石を領する事となつた。仁連木城は此時廢止されたのである。然るに慶長五年關ヶ原の合戰後輝政は功を以て播州姫路五十二萬石に封せられ、吉田城を去り其後を繼いだのは松平玄番頭家清であつた。封祿三萬石其の後慶長十七年に松平主殿介利忠、寛永九年に水野隼人正忠清、仝十九年に水野監物忠善と數々城主の更迭があつたが祿高は矢張り多い處で四萬五千石位のものであつた。正保二年小笠原壹岐守忠知城主となつたが、夫れから長矩、長祐、長重と四代の間繼續した、小笠原氏に次いで元祿十年久世出雲守重之が來たが、之れも在城十年にして寛永二年牧野備前守成春と交代した。成春の次は其子大學成央で牧野氏に代つて此の地の城主となつたのは大河内氏である、大河内氏は正德二年信親の時代に初めて古河から移封されて來たのであるが、享保十四年一度濱松に轉封になり、之れに代つたのが松平豐後守資訓で之れも寛永二年になつて再び大河内氏と交代になつた、封祿七萬石當時大河内氏は信親の子信復の代であつたが、夫れから信禮、信明、信順、信寶、信璋を經て信古に至つたので、之れが最後の城主で吉田城址は今の步兵十八聯隊の營舍がある處である。

仁連木城…其來歷と宗光…重貞の戰死…
天正の戰…康長の戰功……　……

東田の北に朝倉川と云ふ小川が流れて居る。之は八名郡との境界をなすもので蟬川の下流であるが、此川に臨める高地に仁連木城の舊址がある。此城の來歷に就いて種々なる說

があるけれど、明應年中戸田彈正左衞門尉宗光の築いたのであると云ふのが事實らしい宗光は初め碧海郡上野の城に居たが、寛正六年五月德川家康から六代目の祖に當る松平和泉守信光と共に室町幕府の命を受けて、三河國内の一揆を平定した事は蜷川親元の日記などにもあつて有名な話である。宗光は其後居を渥美郡の老津に移し、更らに一色氏の後を襲いで、永正十三年の頃田原に根據を構へたが、其後更らに時を得て此仁連木にも城を築き田原をば其子憲光に委ねて、自分は此處に移つたのであるが、多分明應初年頃であると思ふ。宗光卒去の後は憲光及其次男吉光も亦此處に居城した事實がある。其後は此城も暫らく放棄されてあつた樣に考へられるが、天文十年に至つて憲光の曾孫に當る丹波守宜光が牛窪の加治村から之を再興したのである、永祿七年吉田城から其母を奪ひ返した主殿介重貞は即ち其子であつたが、重貞は其の年の十一月吉田の城攻めに於て戰死したので、其後を弟の甚平忠重が襲ひた、然るに之れも亦た永祿十年五月病沒したのである。當時其子の康長はまだ六歳の子供であつたから、一族の戸田傳十郎吉國と云ふ人が之れを扶けて陣代となつた。即ち元龜三年武田信玄の襲來に方つても、天正三年五月武田勝頼の來攻に際しても共に吉國後見の時代であつたが、其家臣等の奮鬪に依つて天正の戰には敵首十八級を得以て家康の臺覽に供したと傳へられて居る。之より先康長は松平の姓を賜はり、家康の仝母妹久松氏に配したのであるが、後屢々德川氏の爲に戰功を立て、天正十八年家康の關東移封と同時に武藏國東方一萬石に封せられたのである。爾來仁連木城は遂に廢城となつて今日に至つたのであるが、今は大口喜六氏の所有地となり、一部農園を經營して居る。

豐川の清流…古名の色々…橋梁移轉……

地子御免…貨物の運上…舊幕時代の湊…

豐橋の架つて居る河が即ち豐川である。其の源を北設樂郡段戸山に發し南流して段嶺村を過ぎ、作手川を容れて寒狹川となり南設樂郡長篠村に至り三輪川を合し、更に西南に流れて寶飯、八名、渥美、豐橋、三郡一市の界を爲し前芝村に至つて渥美灣に入るのであるが、延長凡そ十七里である。此河の古名を飽海河と謂ひ、後吉田川とも言つたが、近世一名姉川の稱があつた。併し此名は餘り世に知られて居らぬ昔飽海郷と寶飯郡と渡會郷との間に志香須賀と云ふ豐川の渡しがあつた。地形の變遷が甚だしいので今其位置が明かでない元は此の名を然菅と書いたが中世からは白菅の字を訛用したるものと思はれるが其後又た更らに鹿菅などとも書かれて居る。豐橋を渡れば寶飯郡の下地町である、橋の此方が市

内の船町である。此町は池田輝政の橋梁移轉に依つて漸次發展を來たしたものであるが、船乘又は運送渡世の者が多かつたので、慶長五年關ヶ原の役には城主輝政の命を受けて伊勢の津又は松坂などへ往來したのである。夫れが緣故となつて爾來引續き藩主から船役を命せられ、地子御免の上、此河に輸入する貨物の運上を取る事をも認められて居たのである。而かも舊幕時代には此處以外豐川沿岸の地に湊を許されなかつたから。伊勢又は尾張地方に交通する船舶は常に橋下に輻輳して、船町の繁昌は著しかつたものであつた。

豐橋名代行事

煙火……鬼祭

元祿時代と謂へば誰れも知らぬ者はない江戸全盛の時であるが、其驕奢の風は地方にまでも流れて來たので、彼の吉田の花火なども此頃から盛大になつたのである。勿論此の花火は關屋縣社吉田神社の祭禮に於て行れたのであるが、元同社の神官であつた石田家の記錄に依つて見ると、初めて建物(花火の一種)の大きなものが出來たのは元祿十三年の事で長十三間幅三間半で其費用は廿四兩かゝつたとしてある。舊幕時代には祭禮中本町の通行を禁じ市街に於て打揚げたのであつたが、今は社前と豐川水上に於て行つて居る。又同祭禮に要する本町の山車に幕の出來たのも元祿十六年の事であるとしてあるが、萱町から出る笹踊の裝束も元は木綿の浴衣であつたのを元祿に入つて絹更紗染に改め、其十七年に至つて緞子のものが出來た樣子である。それのみならず右の記錄の中には其の頃笹踊を囃す爲めに大太鼓や小太鼓の打手の中に頗る名人の出來たと云ふ事か詳しく記してある。吉田神社の例祭は毎年七月十三、四、五日の三日間であるが、吉田時代の風流を偲ぶ花火や笹踊りは今尙ほ此祭日には盛んに行はれ、天下名代のものとなつて居る。此の外豐橋市に於ける年中行事として主なるものは、中八縣社神明社の鬼祭である。此社の例祭は毎年二月十四五の兩日を以て行はれ、俗に之を鬼祭と稱へて居るが、其式は天狗の面をつけ土鳥帽子小具足を着けた武者が赤鬼を追ひ拂ふのである。夫れが濟むと神輿の渡御になる順序で此神事は極めて奇なる祭であると云ふ事である。

附近町村を探ねて

豐川鳳來寺鐵道沿線…豐橋以西…豐橋以東…
半島方面…八名郡及下地方面……

我が東三河は古い歴史を有つて居る丈けに、今尙ほ王朝以來の遺蹟を初め室町期即ち群雄割據時代の城壘並に古戰場其他武將の墳墓等が到る處に見受けられるのである、先づ豊川鐵道の沿線では、小坂井村の東端に在る風祭で名高い菟足神社、次には德川氏に葵の紋所が起つたと云ふ由緒のある伊奈城址、牛久保では今川義元並に舊一色城主一色刑部少輔の墓がある大聖寺、山本勘助の墓所で知られて居る長谷寺等があり、尙夫れから程遠からぬ處に牧野民部亟成定の爲めに建立した光輝庵がある。牛久保驛から僅か進むと豊川に達するのであるが、此處には吒枳尼尊天によつて天下に有名な妙嚴寺の稻荷と外に三明寺の名蹟と縣立蠶業試驗場豊川支場とがある。國幣小社砥鹿神社は一宮驛を去る三町許り東方で祭神は大己貴命である。次は長山驛で砥鹿神社奥宮の鎭座する三河第一の高山である本宮山へ此驛から頂上までは五十餘町である、東上驛附近に牛の瀧あり直下六十尺、行路極めて平坦驛から八丁夏季避暑客極めて多し。野田城驛は笛の名人村松芳休の劉曉たる妙音に誘はれて武田信玄が狙擊せられたる野田城址へは僅かに五町、更らに新城に入り菅沼定盈の墓がある、此の地は豊橋以北の小都會で縣立農蠶學校を始め高等女學校官衙公署があつて商工業亦盛である、豊川鐵道の終点は長篠驛で豊川鳳來寺兩線の接續する所である。

大野を經て川合に至る鳳來寺鐵道と海老、田口、津具を經て信州飯田に至る伊奈街道との分岐点で驛前から東三自動車が一日二回まで往復の便がある。此の驛を距る十四町余寒狹川三輪川二流交叉の處に長篠古城址があつて附近一帶は武田、德川、織田三氏の古戰場である、長篠役は天正三年五月甲斐の武田勝頼が家康の臣奥平信昌を此の城に圍みたるに起因し、此の時鳥居强右工門の最後は人口に膾炙せる處であつて、其墳墓は今も鳥居驛から一町余の寒狹河畔に存在して居る、其他此合戰に戰死せる甲將馬場美濃守信房内藤修理亮昌豊山縣三郎兵衞昌景其の他の墳墓は今尙此地を中心として附近に散在し行人をして低回顧眄の情に堪へざらしむる者がある、鳳來來の舊時を偲はむとするものは長篠驛から二里余自動車人力車の便によつて山麓に達す鳳來寺驛から下車すれば二十余町山麓から本堂藥師如來迄は九町を登るのである同寺は推古天皇の勅願により僧利修の開創せる處天臺眞宗の二宗を兼ね極めて古い由緒を有つて居る全山風物總て壯觀を極めたものであつたが數度の火災に逢つて今日舊態を存せず僅かに三門並東照宮祠などは尙昔時の面影を留めてゐる、東照宮は慶安四年の創立で後度々修繕を加へられてゐるが尙明かに德川初期の樣式を見るべきものである殊に此の山は阿蘇火山脈の終点に位し悉く火山岩で構造され極めて斷壁千

伊の奇勝に富んで居る、三河大野驛から行者越に道を取れば鳳來寺で最も近徑で大野橋を渡ると八名郡大野町である此地名勝に富み商工業亦盛なれば驛には設備整ひたるホテルを設け旅客の便を計る町はづれに天神山公園と不動瀧がある此處から山吉田村阿寺迄に二里余りで馬車自動車の便あり飛泉豐で七折の高さ百二十五尺阿寺の七瀧と稱し夏猶寒きを覺ゆる避暑地である。湯谷驛は所謂鳳來狹の中間で三輪川(板敷川)を隔てた對岸は縣道別所街道が坦々として北へのび恰かも耶馬溪を見るが如き風趣をたゝゑて居る川の流れに沿ひ小盆地から湧出づる鑛泉がある之れを鳳液泉と謂ひ萬病に効顯ありとて驛は此處にホテルを經營し旅客をして心行くまで享樂せしむるとの事である。三河槇原驛は鳳來寺山から搬出の山と積まれた木材薪炭製材の響附近殊に佳景に富み幾多の鳳來狹名所がある此地山深きに平地多ければ都人の別壯地として有望である。三河川合驛は本郷御殿振草を經て信州新野及飯田に至ると浦川中部を過き久根銅山水窪に至る分岐樞要地點である此驛から凡そ三十町余りで有名なる乳岩に達す鐘乳洞に入れば乳岩大神不動明王の鎮座し鐘乳豐かに下るも嬉しく石門に至れば雄大なる自然の美に打たれ茫然漸く我に返り展望せんか嚴層より なる連峯の雅趣を一眸に收め川合の村落は浮繪の如く眼界に入る春の山を飾る石楠花深山躑躅の咲き亂るゝ麗はしさ夏の納涼秋の紅葉に衣を染むべき勝地此附近に多く詩人墨客の杖を曳くべき地である、されば驛に於てホテルを直營し遊覽に便せしむ。

尙ほ舊東海道沿線豐川橋以西では御油町の縣社御津神社、大恩寺、御油海岸等で國府町では平尾、白鳥、八幡、國分寺、西明寺、八幡社、鷲坂などで昔から聞えて居るが、殊に西明寺は昔最明寺時賴が駐錫した處であると云ふ事で其名が現はれて居る。又赤坂町に入ると紅葉の名所宮路山を初め二村山、長澤、山中、本宿、鳥屋根、御殿場など由緒ある處である。蒲郡は元西鄕と蒲形を合せたもので、今では海岸に海水浴場の設けがあり、風光頗る明媚にして夏期に入ると各地から來り遊ぶ者が却々多い。仝町に於て大塚、西郡、財賀寺等は最も古い歷史を有して居る。

次に東海道鐵道沿線を豐橋から東に向へば、二川町の岩屋觀音、高師山、雲谷の普門寺小松原の東觀音寺、鷲津本興寺が歷史的に世上著聞の場所であるが、殊に岩屋觀音が其最なるものであらう。又一方下地町になると聖眼寺、水神社、大蚊里、正岡、花井寺、古宿、大村など比較的史實に富んだ處として指を屈せねばなるまい。夫れから八名郡方面では法言寺、石卷山、石卷神社、本坂峠、嵩山正宗寺、月谷大洞窟等最も名ある處となつて居る。

更らに渥美半島方面に於ては渥美電鐵の沿線高師村に入れば小池驛附近に潮音寺がある曹洞宗に屬し行基の開創せるものと傳へられて居る、此寺の觀音は潮道の觀音寺稱し舊來有名なるものである、師團口驛は騎兵第四旅團司令部を始め高射砲隊等の所在地であつて明治四十一年十一月第十五師團司令部が此地に置かれて以來著しく發展したのであるが、一昨年五月軍備縮少により第十五師團司令部を廢止せられ今は第三師團の管下となつて居る串蛸の製造に於て有名なる大崎へは師團口驛より約一里である、芦原驛より十町程で野依毘沙門天へ行く事が出來る、大清水驛附近には渥美電鐵に於て娯樂場として野球グランドを設け常に試合を催し好球家を喜ばして居る、老津、谷熊、豊島の各驛より多賀壽命殿長仙寺の名刹へ何れも十三町である、此寺は天平十七年行基の開創で現在の本堂は延寶九年頃の建築である、天白、神戸の各驛を經て田原驛に入ると、此處は明應年間戸田宗光の築いた田原城址等がある田原藩の老臣にして書畫を能くし詩文に長じ、更らに海外の事情に通じたる渡邊華山の墓は仝町城寶寺境内にあつて三宅氏の祖兒島高德を祀る縣社巴神社は舊城址の一隅に鎮座ましますのである。又田原藩の執政で火技を研究し造船の法に長じ、後擧げられて藩政を掌つた村上藩致の墓も仝町に在り。其他神戸神明社、阿志神社、長興寺、泉村鸚鵡石、福江泉福寺、伊良湖岬、石門、村松。豊川河口では牟呂吉田、神野新田、前芝など何れも三河の名所舊蹟として廣く紹介する價値がある、特に牟呂吉田の農商務省水産試驗所豊橋養魚試驗場の如きは大ひに見るべきものがあると思ふ。

◇豊橋市内に於ける劇場、活動寫眞館

所在	座名	電話番號	主ナル目的
吳服町	東雲座	二二三	演劇
花田町石塚	豊橋座	七四一	仝
上傳馬町	帝國館	二二五	活動寫眞
神明町	豊明館	四一九	仝
松葉町	ニシキ館		仝
西八町	大盛館	五二九	仝
清水町	蝶春座		寄席
上傳馬町	河原座		仝

豐橋輸出麻眞田工業組合	新川町
東三生糸製造同業組合	花田町
三遠玉糸製造同業組合	指笠町
東三繭糸問屋同業組合	仝
東三醬油同業組合	花田町
東三蠶種販賣同業組合	花田町
豐橋市養蠶同業組合	西八町
豐橋米穀商同業組合	花田町
有限責任東田信用購買組合	東田町
有限責任飯購買販賣組合	飯村町
有限責任豐橋購買組合	岩田町
有限責任三遠革正生糸販賣組合	本町
豐橋洋品雜貨足袋商聯合會	花田町
東三蠶種同業組合	花田町
豐橋賣藥同業組合	新錢町
豐橋驛前公認運送組合	花田町
豐橋石炭例月會	關屋町
東三織物雜貨卸賣組合	上傳馬町
豐橋鷄卵問屋組合	關屋町
豐橋青果株式會社仲買人組合	西新町
豐橋製綿商組合	花園町
豐橋煙火製造組合	魚町
豐橋豆腐製造業組合	新川町
豐橋古道具商組合	仝
豐橋屑物商組合	曲尺手町
有限責任豐橋家禽購買販賣組合	手間町

有限責任豐橋信用組合	神明町
東三酒造組合	松葉町
三河搾乳畜產組合	新川町
御大典記念豐橋市前田耕地整理組合	西八町
東三繭糸屑物業組合	花田町
豐橋麵類商組合	札木町
豐橋陶磁器業組合	曲尺手町
豐橋銀行組合	中世古町
豐橋藥業組合	西ノ又
豐橋箪笥同業組合	本町
東三綿織物同業組合	淺町
豐橋吳服太物商組合	東田町
豐橋洋品雜貨組合	花園町
豐橋麻糸同業組合	札木町
豐橋ラヂオ商組合	紺屋町
東三獸肉商組合	札木町
豐橋古着商組合	中八町
豐橋建築會	札木町
豐橋金物業組合	花田町
豐橋紙商組合	銀冶町
豐橋砂糖商組合	萱町
遠三平和會	花田町
豐橋建具指物組合	關屋町
豐橋製菓商組合	新川町
豐橋洋服商組合	吳服町
豐橋足袋商組合	船町
豐橋宿屋營業組合	松葉町
豐橋質屋業組合	吳服町
豐橋料理業組合	關屋町
豐橋洋物商組合	魚町

豐橋商友會	清水町	豐橋靴商組合	花田町
豐橋酒醬油商組合	魚町	豐橋米穀肥料問屋組合	下地町
豐橋薪炭商組合	西八町	豐橋木材商組合	花園町
豐橋魚市場仲買人組合	魚町	豐橋履物商組合	本町
豐橋塩干魚商組合	新川町	三河輸業組合豐橋支部	西八町
豐橋染物張物業組合	新錢町	豐橋印刷業組合	吳服町
豐橋毛筆問屋業組合	旭町	豐橋時計商組合	西宿町
豐橋中央料理同盟會	札木町	豐橋毛筆製造組合	花田町
豐橋上傳馬料理組合	上傳馬町	三遠玉糸製造同業組合豐橋部落會	下地町
松葉町料理屋組合	松葉町	東三生糸製造同業組合豐橋部落會	湊町
豐橋理髮業組合	東田町	東三製本業組合	小池
豐橋湯屋業組合	中世古町	東三製傘業組合	

◇市内ニ於ケル主ナル旅館

所在屋號	電話	氏名	所在屋號	電話	氏名
驛前つぼや	一四三	加藤庄六	札木町ますや	一〇七	佐藤傳次郎
仝山田屋	五五	河合利市	清水町村田屋	六二	村田可也
仝大村屋	六二二	大村友吉	本町大黑屋	一二八	鈴木とみ
札木町小島屋	二一	富田源四郎	仝米善	三三	石川正六
驛前岡田屋	二四三	岡田吉三郎	西八町豐屋	二九五	石井長左衛門

◇市内主ナル料理店

所在屋號	電話番號	氏名	所在屋號	電話番號	氏名
札木町千歳樓	二六一 九五二	長坂長衛	札木町僧樂亭支店	五八三 八八五 八九五	伊藤貞治
關屋町老松館	一一二 一一〇五	遠藤くり	上傳馬町八千久		河内伊之吉

◇衆議院議員

豐橋市船町　大口喜六　電話三四三番

◇愛知縣會議員

豐橋市曲尺手町	電話五一七番	小山信
仝　市中八町	電話一五六番	鈴木五六

◇豐橋市部所得調査委員

住所	職業	電話番號	氏名
豐橋市花田町字西宿	會社員	二一二	榊原辨吾
仝　市松葉町	會社員	六二五	神野三郎
仝　市旭町字旭		一、〇五九	黑柳清次
仝　市曲尺手町	陶器商	五一七	小山信
仝　市東新町	玉糸製造業	一五八	金子丈作
仝　市關屋町	青果物商	一、〇二七	河合玫郎
仝　市本町	繭絲問屋業	八一三八	河合藤四郎
仝　市船町	乾物商	四二二	加藤發太郎

◇都市計畫愛知支部委員會委員

住所	電話番號	氏名
豐橋市船町	三四三	大口喜六
仝　市旭町字旭	一、〇五九	黑柳清次
仝　市中八町	三一二	小木曾丈三郎
仝　市湊町	一一八	原田万九
仝　市花田町字流川	七二五	内山榮次郎
仝　市鍛冶町	三二八	神戸小三郎
仝　市船町	八	服部彌八

◇同　臨時委員

豐橋市中八町	二三三	福谷元次
仝　市東田町字東前山	七三二	今西卓

◇豐橋市會議員

住所	職業	席次	電話番號	氏名
鍛冶町	金物商	議長 一	三二八	神野小三郎
岩田町	蠶種製造業	副議長 五		藤田力作
花田町	無職	參事會員 七		彦坂庄五郎
神明町	銃砲火藥商	參事會員 三一	一二五〇	安藤角次郎
關屋町	肥料商	參事會員 二一	四二九	野澤藤五郎
船町	會社員	一一	三四三	大口喜六
花田町松山	清涼飲料水製造業	參事會員 二九	七五七	近藤竹次郎
中八町	新聞記者	二	二三四	丸地幸之助
新川町	醫師	三	六四二	金子本市郎
松葉町	會社員	四	二一二	榊原瀨一
吳服町	自轉車商	六	五三四	村上芳次郎
花田町西宿	藥屋物商	八	八〇五	松尾幸次郎
中世古町	蠶屑物商	九		加藤勘吉
松葉町	酒類商	一〇	七九四	青山嘉一
東田町五反田	席貸業	一二	一六四	村田義直
新川町	無職	一三	一二九二	中谷精
瓦町七反田	席貸業	一四	八四二	三浦源六
東田町西脇	蠶種製造業	一五	一一六三	向坂助吉
上傳馬町	料理業	一六	一三〇	片山常太郎
中柴町中柴	製絲業	一七	一一八〇	小川鹿三
新錢町	藥種賣藥商	一八	六四九	牧壽一
西八町	辨護士	一九	三〇四	淺井順次
船町	乾物商	二〇	四二二	加藤發太郎
花田町築地	農	二一		住野樂三郎
西八町	粉類商	二三	一九二	大森俊治

湊町會	社員	二四	一一八	田原万九
瓦町、通會	社員	二五	一〇五五	佐藤彌平
關屋町旅人宿	業	二六	四四六	石田又市
中八町辯護	士	二七	三一二	小木曾丈三郎
花田町東郷醬油製造	業	二八		光島政次郎
札木町藝妓置屋	業	三〇	七四	野口泰一
花田町流川製絲	業	三二	七二五	内山榮次郎
仝稗田會	社員	三三	一六〇一	大塙恒次郎
仝稻塲農	一	三四		近藤市郎
中八町辯護	士	三五	一五六	鈴木五六
旭町旭會	社員	參事會員 三六	一〇五九	黑柳清次

◇各官公衙長

豐橋市長　田部井勝藏

豐橋警察署長　須藤實

豐橋稅務署長　渡部昇

豐橋郵便局長　向山善次郎

豐橋驛長　富永貫一

騎兵第四旅團長　服部眞彥

騎兵第二十五聯隊長　橋本虎之助

騎兵第二十六聯隊長　土屋義幹

步兵第十八聯隊長　高嶋彌之助

高射砲第一聯隊長　八部九八郎

工兵第三大隊長　中村良雄

豐橋聯隊區司令官　新山福治

豐橋衛戍病院長　竹内雅休

豐橋憲兵分隊長　曾野芳彥

愛知縣蠶業取締所豐橋支所長　坂本宇一

名古屋地方專賣局豐橋出張所長　村田道惠

豐橋區裁判所判事　多田九二八

農林省水產講習所豐橋養魚試驗場　松井佳一

陸軍兵器本廠豐橋出張所長　三浦眞多雄

帝室林野局豐橋出張所長　大脇助太郎

第三師團經理部豐橋出張所長　成田半次郎

◇豐橋商業會議所議員

住所	職業	席番	電話番號	氏名
札木町	葉子商	一	三三六	山田芳藏
關屋町	石炭商	二	五三七	合資會社杉八商店石炭部 代表者 山田末治
松葉町	繭屑物商	三	三九〇	花井丹次
仝	會社員	四	六二五	神野三郎
花田町西宿	會社員	五	二二七	內藤太郎吉
西新町	吳服商	六	五四九	鈴木清
關屋町	清涼飲料水製造業	七	八	鈴木吉治郎
船町	醬油製造業	八		服部彌八
關屋町	肥料商	九	四二七	今泉福太郎
東新町	玉糸製造業	一〇	一五八	金子丈作
西八町	薪炭竹商	一一	三九五	白井淺治郎
本町	繭生絲問屋業	一二	三八	河合合名會社 代表者 河合藤四郎
旭町	米穀商	一三	一六七八	近田繁吉
曲尺手町	屑物商	一四	七六四	合名會社紅久商店 代表者 三浦多吉
湊町	材木商	一五	四六八	大山長平
魚町	砂糖海產物粉類商	一六	一六二	合名會社瀧崎商店 代表者 瀧崎安之助
花園町	醬油製造業	一七	五一〇	大山銀藏
關屋町	青乾物鷄卵問屋業	一八	一六五	河合致郎
萱町	砂糖問屋	一九	四	福谷藤太良

花田町池田	生絲玉絲製造業	二〇	四八六	清水熊太郎
仝 大塚	蛹肥料商	二一	一一一六	熊田嘉平
中世古町	鐵工業	二二	八八	平石丈三郎
下地町	雜穀肥料商	二三	五九	磯村彌八
札木町	寫眞材料商	二四	一六八	白井勝治
中八町	會社員	二五	二三三	福谷元次
松葉町	會社員	二六	一二〇 一一七五	生絲周旋株式會社 代表者 富安鷹次
新川町	漁網製造業	二七	二四四	山本安太郎
花田町堀先	生絲製造業	二八	七九七	氏原助造
西新町	醬油製造業	二九	五一五	白井權八
下地町	生絲製造業	三〇	六七九	鈴木磯太郎

◇特別議員

船町	衆議院議員	一	三四三	大口喜六

東田町	豐橋市長	二	一一三八	田部井勝藏
鍛冶町	豐橋市會議長	三	三二八	神戸小三郎
花田町北新起	豐橋驛長	四	二ノ甲	富永貫一
中八町	豐橋郵便局長	五	二〇〇	向山善次郎
東八町	豐橋稅務署長	六	一一三九	渡部昇

◇商業會議所役員

會頭	福谷元次	常議委員	氏原助造	
副會頭	山本安太郎	同	福谷藤太良	
同	神野三郎	同	白井淺治郎	
常議委員	磯村彌八	同	清水熊太郎	
同	服部彌八	同	鈴木清	
同	河合玫郎	書記長	鈴木澄衞	

◇職員

書記	佐原代作	備同	森眞子
同	水谷貞雄	同	神谷あさ子
備	成田忠男		

商業會議所沿革

豊橋商業會議所は明治二十六年三月二十五日の創立で其所管區域は當時の渥美郡豊橋町を中心に仝郡田原、寶飯郡下地、仝豊川、仝牛久保、仝小坂井、仝前芝の七ヶ町村で明治二十七年頃の事務所の位置は豊橋町大字關屋百五十番戸に在つたらしく其後明治三十六年十月頃に仝町大字上傳馬丙百十九番戸に移り之れと同時に從來の區域を變更して現在の地區に限局したのである更らに明治四十一年十月一日豊橋市大字西八乙百三十七番戸に大正四年二月十五日に仝市大字中柴乙百二十番戸に仝十年五月六日仝市大字本二十九番地に轉し現今の位置に移轉したのは大正十五年十月二日であるが此間約三十年數次の變遷を重ね隨つて役員の更迭も屢々行ばれて居る而して當所の經費豫算は大正十年が金一萬二千七百八圓大正十一年が金一萬二千三百十五圓大正十二年が金一萬三千二百六十八圓大正十三年が金一萬三千八十圓大正十四年が金一萬三千五百四十五圓大正十五年が金一萬四千四十七圓と順次增加して居る。

就職年月日	會頭	副會頭
明治二十七年		
仝 二十八年九月	加藤六藏	三浦碧水
仝 二十九年五月	三浦碧水	
仝 三十三年十一月七日	三浦碧水	
仝 三十四年三月二十七日	瀧崎安之助	
仝 三十四年七月九日	瀧崎安之助	
仝 三十四年十二月七日	中尾十郎	
仝 三十六年十月一日	遠藤安太郎	遠藤安太郎
		杉田八五郎
		杉田久吉
仝 三十八年五月十九日	遠藤安太郎	中西廣三郎

仝	三十九年六月二十五日	高橋小十郎	大山復次郎
仝	三十八年五月十九日		鈴木清十
仝	四十年十月一日		遠藤安太郎
仝	四十一年八月三十日	服部彌八	原田万久
仝	四十二年五月三日	服部彌八	中西廣三郎
仝	四十四年五月五日	田中新	中西廣三郎
大正二年五月一日		田中田新	中西廣三郎
仝	六年五月一日	白井直次	中西廣三郎
仝	七年十月七日	高橋小十郎	神戸小三郎
仝	十年四月二十六日	高橋小十郎	服部平之助
仝	十二年九月二十八日	山本安太郎	中西廣三郎
仝	十四年五月八日	福谷元次	中西廣三郎
		服部彌八	高橋小十郎
		山本安太郎	服部彌八
		河合岩次郎	原田万久
		山本安太郎	田原万久
		神野三郎	服部彌八

◇辯護士

事務所	電話番號	氏名
豐橋市中八町	二八五	堀端房一
同市同	三一二	小木曾丈三郎
同市西八町	三〇四	淺井順次
同市中八町	一五六	鈴木五六
同市同		大井伊八

大正十五年十二月十四日印刷
大正十五年十二月十八日發行

發行兼編輯人　豐橋市花田町字石塚四拾五番地ノ五　鈴木澄衛

印刷人　豐橋市指笠町參拾七番地　高木鴻之介

印刷所　豐橋市指笠町參拾七番地　高木印刷所

發行所　豐橋市花田町字石塚四拾五番地ノ五　豐橋商業會議所　電話二〇九番

八丁味噌
漬物
鑵詰
各種
名物屋漬物店
豐橋市大手通二丁目
電話六九五番

八星漆器店

豐橋市曲尺手町
電話一八二六番

各國時計
貴金屬品
裝身具品
商

豐橋市吳服町

後藤時計店

店主 永井綱太郎

電話二五三番

營業種目

正綿
落綿
製綿
絹綿

草 加藤常吉商店

愛知縣豐橋市花園町
電話 三〇一番

京都伊東六神丸代理店

藥種
賣藥 問屋 大 大丈商店

豐橋市吳服町
電話 壹貳四番
振替東京參四七八參番

肥料
輸入製造

米穀飼料
輸入移入

業

豐橋下地町

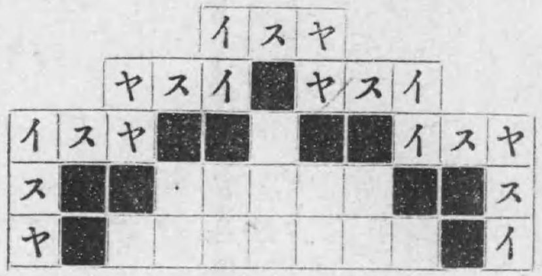
桝屋商店

店主 磯村彌八

下地町本店 電略(マスヤ)又ハ(マ)
電話 五九番
一三六九番
九二二番

豐橋驛前出張所

歐風家具製造



卓子掛
机掛
靴マット
カーテン
ブラインド
大理石
リーム油
其他敷物
室内裝飾
一式

豐橋市吳服町

渡邊商店

電話一九七番
振替名古屋六二七九番

露光量違いの為重複撮影

商標

漁麻漁
ロープ
網孚
具ラ

網太山本安太郎

豐橋市新川町

電話 三四四番

振替 東京一五一六一番
大阪六八二六四番

絹與の羊羹

豐橋市吳服町

露光量違いの為重複撮影

商標

漁網
麻綱
ロープ
漁具

網太 山本安太郎

豐橋市新川町

電話 二四四番

振替 東京一五一六一番
大阪六八二六四番

絹與の羊羹

豐橋市吳服町

貯

豐橋市札木
株式會社
日本貯蓄銀行
豐橋支店
電話 六一九番

このところ
無限責任
絶對安全!!

リソー乾電池製作所
特許理想國益電燈發賣元

電氣瓦斯オヂラ
卸造製 旭商會

豐橋市札木町一丁目
電話 六三九番
電報（ア）ハ又（ア）（ヒサア）
振替口座東京二六一九七番
名古屋一〇四二番

終

優等銘酒

宗正ルツ

灘陽摂

社會式株造酒辰本